脱炭素の取組状況について

令和４年１１月２日

（　美浜町　）

美浜町環境基本計画骨子（令和４年度改定中：見直し）　（平成19年策定、平成29年改正）

目指す環境像

豊かな未来につなぐ
人にも地球にも優しい　循環共生のまち

本町が目指す環境像は、私たちが守り育んできた「豊かな自然」「ひと」「まち」といったかけがえのない「宝」たちを未来に引き継いでいくため、全ての人々が自ら進んで学び・行動することで、人にも地球環境にも優しい持続可能なまちを築いていくことを目指します。

基本目標



現状と課題

	国内外の現状	町の現状	計画に反映すべき内容
温暖化に関すること	・世界的な目標として「パリ協定の実現」が掲げられる ・国や県が2050年カーボンニュートラルを宣言 ・国の地球温暖化対策計画にて新たな目標が示される ・気候変動適応法がH30.12月に施行	・町の温室効果ガス削減目標達成 ・エネルギービジョンを改定、再生可能エネルギーの利活用が進む ・エネルギー環境教育の拠点として「きいぱす」を活用	・パリ協定、2050年カーボンニュートラルを踏まえ、新たな削減目標の検討 ・気候変動適応法に基づく「適応策」の推進 ・再生可能エネルギーの利活用強化
資源循環に関すること	・プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律がR4.４月に施行予定 ・食品ロスの削減の推進に関する法律がR１．１０月に施行	・生ごみ資源化の運用状況が悪化 ・海流に乗って大量の海洋ごみが漂着している	・プラスチックの使用削減・資源化の促進 ・食品ロスの削減や生ごみの資源化促進 ・漂着ごみ対策の強化
生物多様性に関すること	・自然環境の改変や生活様式の変化、気候変動などにより生物多様性が悪化 ・世界では３万種以上の生きものが絶滅の危機に瀕している	・ラムサール条約に登録されている三方五湖を始めとする貴重な自然を多く有している ・日本農業遺産の認定を受ける ・野生鳥獣による農林業への被害が発生している	・三方五湖をはじめとする貴重な自然や生きものの保全対策の強化 ・貴重な自然を保全するだけではなく教育や観光に活用 ・野生鳥獣害対策の強化
生活環境に関すること	・国内の大気、水、土壌の環境汚染などの状況について、環境基準の達成状況は概ね改善傾向 ・微小粒子状物質（ＰＭ2.5）や光化学オキシダントなどへの対応が必要	・町内の大気、水、土壌の環境汚染などの状況について、環境基準の達成状況は概ね良好 ・美化活動や不法投棄対策を行っているものの未だポイ捨てや不法投棄が発生	・大気、水など環境項目の継続的な監視・結果の報告 ・事業者と連携した環境リスクの管理 ・美化活動・不法投棄対策の強化
持続可能な社会の実現に関すること	・世界的な目標として「持続可能な開発目標（SDGｓ）の実現」が掲げられる ・国の環境基本計画にて「地域循環共生圏（ローカルＳＤＧｓ）の実現」が掲げられる	・総合振興計画にて、SDGｓの理念や考え方を反映 ・ふくいSDGｓパートナーに登録	・SDGｓや地域循環共生圏の理念や考え方を踏まえた計画づくり

重点施策の位置づけ

重点施策は、①特に取り組む必要性が高く、②施策全体を牽引する効果が期待され、③環境像やSDGsの実現に貢献するものを位置づけます。

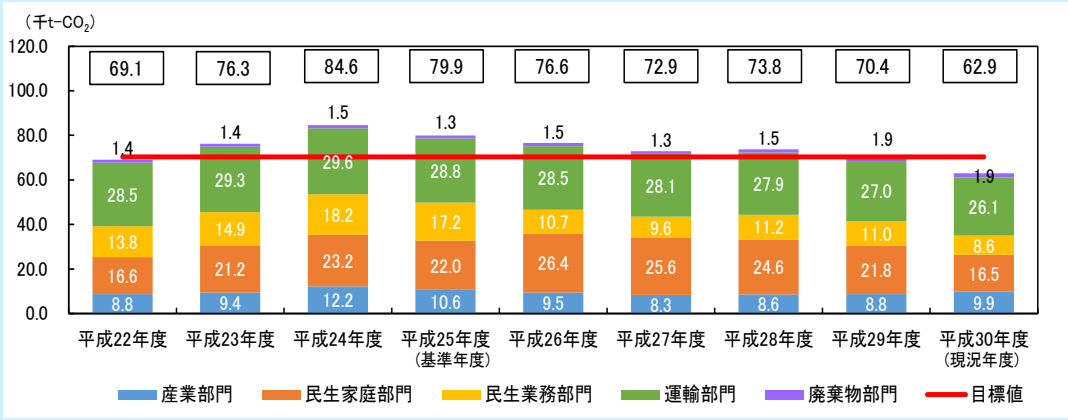
計画では、以下の3つの取組を重点施策として位置づけ、重点的・優先的に進めます。

基本目標1
基本目標2
基本目標3
基本目標4
基本目標5

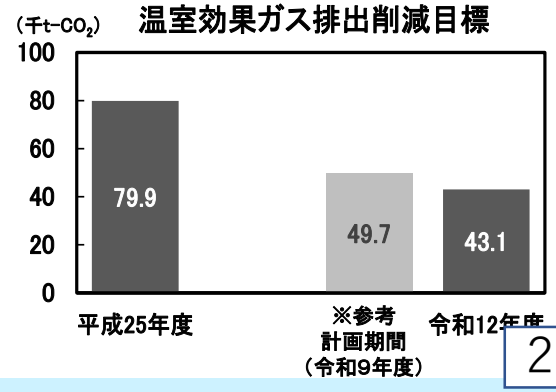
■重点施策1
脱炭素　みはまスマートコミュニティプロジェクト
■重点施策2
みはま　美しい浜・海・湖のクリーンプロジェクト
■重点施策3
ごみ削減 みはまスマートチャレンジプロジェクト

地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

・把握できる最新年度（H30）の町域の温室効果ガス総排出量は**62.9千トン**であり、**基準年度（H25）比21.3%減となり、目標を達成しています。**
※目標：R3までに町域の温室効果ガス総排出量をH25比12%減、70.3千トン。
⇒町の人口減少傾向や電気の排出係数（※1kWhあたりの二酸化炭素排出量）の減少が要因。
・いずれの年度も**運輸部門の排出量が最も多くなっています。**



国の削減目標と整合を図り、町の温室効果ガス排出量を**令和１２(2030)年までに平成２５（2013）年度比で４６%、令和３２(2050)年までに実質ゼロ**を目指します。



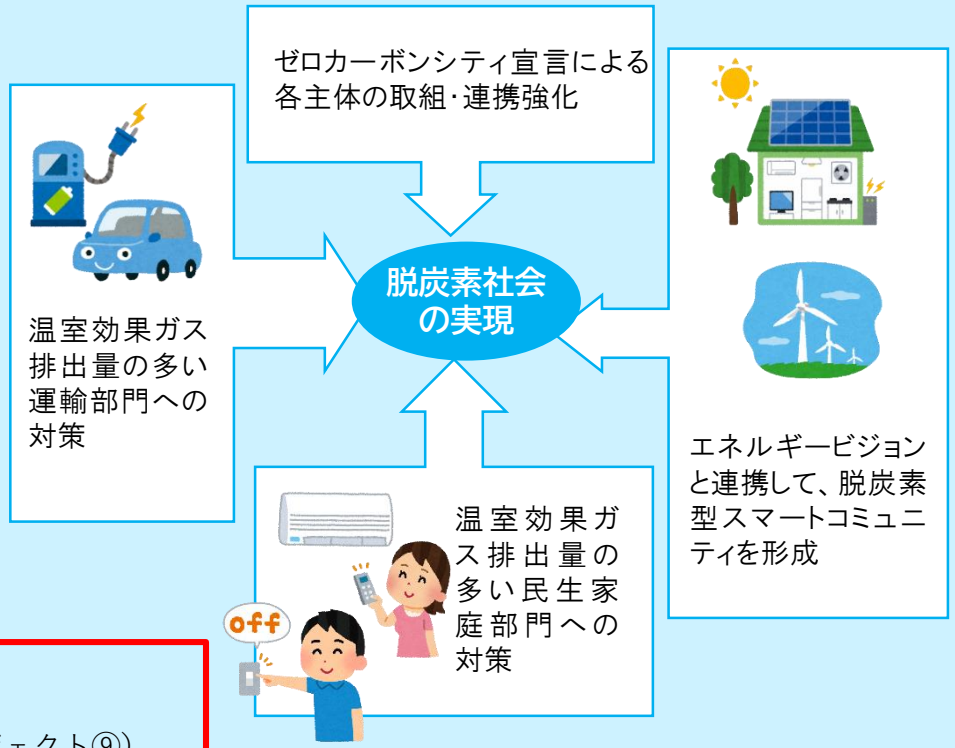
重点施策1　脱炭素　みはまスマートコミュニティプロジェクト

概　要

・2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする削減目標の実現に向けて、町域のエネルギー削減に貢献するまちづくりや脱炭素型ライフスタイルの普及を進めます。
・また、これらを押し進めるために町として「ゼロカーボンシティ」宣言を行い、町民・事業者・行政が一体となった取組を加速させます。

施策の柱

●スマートコミュニティの形成・活用に向けた取組の推進
●運輸部門のCO_2排出量削減に向けた取組の推進
●脱炭素に貢献するライフスタイルの普及啓発



○スマートタウンの整備に向けた調査

（嶺南Eコースト計画：基本戦略Ⅲ、エネルギービジョン：プロジェクト⑨）

（調査内容）
1. 新たに整備するスマートタウンに関する調査・検討
（コンセプトや適地、ZEHの有効性等）
2. 新たなスマートタウンで提供し、さらには他地域への水平展開が可能な新しいサービスに関する調査・検討
（エネルギーレジリエンスの向上、美浜町の特色を活かした暮らしを支えるサービス、VPPへの活用、ゼロカーボン・スマートタウンの取組に関する住民ニーズ調査）



重点施策2　みはま　美しい浜・海・湖のクリーンプロジェクト

概　要

・悪化している漂着ごみの処理コストの改善、また、町が誇る美しい海や湖を保全するため、特にプラスチックごみ削減に向けた対策を強化します。
・また、海水浴場や三方五湖利用客のマナー向上に向けた取組を強化し、浜・海・湖環境の保全を進めます。

施策の柱

●プラスチックごみ削減に向けた取組の推進
●海洋ごみ処理体制の構築
●浜・海・湖の利用客への意識啓発

ごみスマートチャレンジ事業

プラスチックごみの削減に向け、町ではマイボトルやマイバック等の利用を呼び掛け、使い捨てプラスチックの使用抑制を図っています。
更なる対策として、新たにプラスチック代替製品購入に係る経費の一部を補助する制度を創設。

〇対象事業者　町内のテイクアウト等を行う飲食店
〇補助金　対象経費の1/2以内
〇補助金上限額
　1店舗につき10万円
　3店舗以上の事業者は30万円









↑協力店ステッカーイメージ

重点施策2　みはま　美しい浜・海・湖のクリーンプロジェクト

美しい浜プロジェクト
Beautiful beach Project

美浜町における漂着ごみの状況

●収集したごみの多くはプラスチック製のごみとなっています。特にポリ容器やペットボトル、食品洗剤の容器やレジ袋などの陸由来のもののほか、ロープやブイ等の漁具も多く確認されています。

●漂着ごみのうち7割以上がプラスチックごみで、ごみ収集後の砂浜には細かく砕けられプラスチックごみも散らばっています。





漂　着　ご　み

集落・団体等による清掃活動

●例年、海岸清掃のボランティア活動が行われており、多くの方に参加いただいています。

●また、各種団体やサーファーの方々等による清掃、各集落の奉仕活動等で町内海岸・海水浴場の景観維持が行われています。

	R01	R02	R03
漂着ごみ収集量	430．9㎥	442．7㎥	560．7㎥

持続可能な漂着ごみ対策が必要



美しい浜プロジェクトの様子

町が誇る「美」しい「浜」を守るための活動

（1）海岸清掃等のイベント
（2）清掃活動省力化のための海岸清掃機械の実証・導入
（3）さまざまな企業との連携の検討
（4）海洋ごみ問題の周知啓発・理解促進
（5）クラウドファンディングやふるさと納税制度の活用による活動資金調達
（6）その他、美しい浜を守っていくために必要な活動



海岸漂着ごみ清掃作業（委託業務）の様子

重点施策3　ごみ削減 みはまスマートチャレンジプロジェクト

概　要

・増加傾向にあるごみの排出削減、また悪化している処理コストを改善するため、食品ロス削減対策を強化します。

・また、SNSの活用など幅広い世代に向けてごみの分別・リサイクルに関する情報を発信することで生ごみの減量化・資源化を加速させます。



施策の柱

●食品ロス削減に向けた取組
●生ごみ資源化・活用に向けた取組
●ごみの少ない（ない）くらし方の普及に関する情報発信

ごみスマートチャレンジ事業

町ではごみの減量化や分別の徹底による資源化の促進、食品ロスの削減等を呼び掛け、ごみの削減を図っています。
更なる対策として、新たに生ごみを削減するため、生ごみ処理容器等の購入費の一部を補助する制度を創設。

〇対象者　町内に住所を有し、生ごみ処理容器等購入する者
〇補助金　対象経費の1/2以内（100円未満切捨て）
〇補助金上限額
①生ごみ処理容器：1基当たり　5,000円
②生ごみ処理機　：1基当たり　50,000円



美浜町エネルギービジョン　全体概要①

エネルギービジョン策定の背景

- 関西電力㈱美浜発電所1、2号機の廃炉の決定
- 美浜発電所3号機の運転期間の延長

- 「エネルギー構造転換」に向けた取組みの推進や地域住民への理解を図っていく必要がある
- 今後、中長期的な目線で、原子力発電所立地の自治体としてどうあるべきか、エネルギーの面からみて具体的なまちの姿を描く必要がある

エネルギービジョン策定の目的

- 目的①：地元企業が活性化できるような経済対策、雇用の確保・創出につながるような地域共生・地域発展のあり方について、住民理解の促進を図ること
- 目的②：周辺地域・類似都市の模範となるような、エネルギーの取組みを通したまちづくりのあり方・指針を定めること

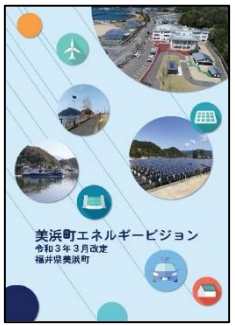
再生可能エネルギーを活用したまちづくりのあり方・指針を定めた**「美浜町エネルギービジョン」**を平成28年度に策定
また、各プロジェクトの具体的な行動計画をまとめた**「美浜町エネルギービジョン事業化計画」**を平成29年度に策定

国内外の状況を踏まえたエネルギービジョンの改定

（改定の背景）
- パリ協定やSDGs「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の推進等、国外において脱炭素化に向けた取り組みが加速。
- 国において、2050年カーボンニュートラルの表明及び電力部門の脱炭素化を目指した「グリーン成長戦略」が策定される。
- 県の嶺南Eコースト計画や、敦賀市のハーモニアスポリス構想等、周辺自治体においても再生可能エネルギーを活用した計画が策定される。

（改定の方向性）
- 国や県、周辺市町における再生可能エネルギーの導入・利用促進に関する動向を記載。
- エネルギービジョン及び事業化計画の効果検証を実施し、既存プロジェクトの再編成及び国内外の動向を踏まえた新規プロジェクトを立案。

「美浜町エネルギービジョン」及び**「美浜町エネルギービジョン事業化計画」**を令和2年度に改定



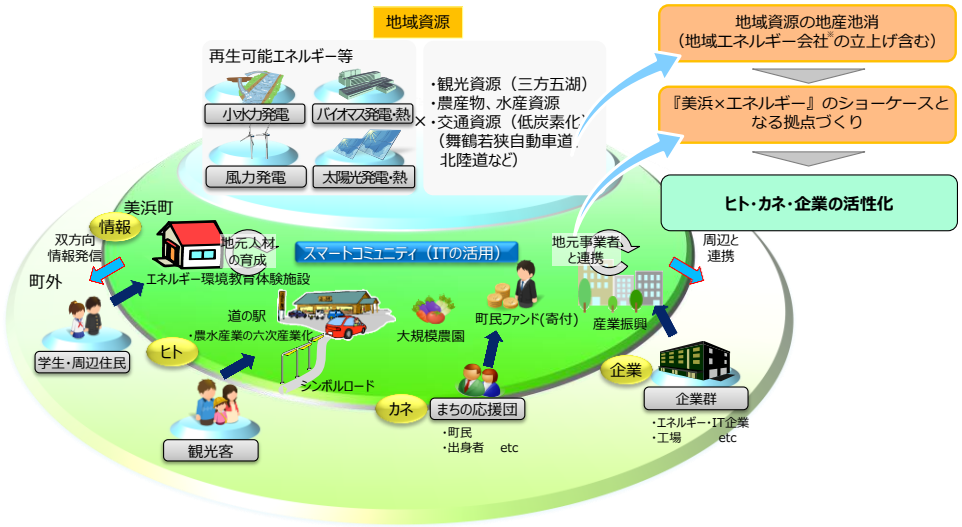
美浜町エネルギービジョン　全体概要②

地域の特徴とポテンシャル		地域課題	
エネルギーのパイオニア	• 大正6年から耳川水電の運転開始 • 昭和45年から国内初のPWR型美浜原発稼働・以降40年超原子力と共生	廃炉に伴うエネルギー・産業構造転換、産業活性化	• 電源三法交付金の縮減に伴う行財政インパクトの回避 • 原子力産業に加え新たな産業構造の実現（1次産業テコ入れ・観光産業） • 人口減少、少子高齢化対策、既存施設・空き家等の有効利用・減築等
潜在的な価値を持つ地域資源・インフラ	• 水晶浜、三方五湖、耳川上流の「渓流の里」などの豊富な観光資源 • 町域の8割超の山間部の風力発電や耳川等での小水力発電の可能性等 • 舞鶴若狭自動車道の全線開通、北陸新幹線による周辺都市部との連携	地理特性を踏まえた地域間連携、周辺との連携	• 旧小学校区等での地域特性を踏まえた地域資源（エネルギー資源、地元人材等）の活用 • 地域資源の点から線・面へとネットワーク化
人づくりの拠点	• 新エネルギーの関心が高い・利用意向を持つ町民が約6割 • 町内外で一体的エネルギー環境学習・啓発の場として「きいぱす」の活用 • 原子力緊急事態支援センター等での人材育成	低炭素化への社会の要請	• 産業部門での省エネ・運用改善・設備更新の徹底 • 自動車社会における低炭素交通の実現 • 2050年カーボンニュートラルの実現

外貨をかせぐ、人・企業を呼び込む必要性　**・取組を町内外へ情報発信・双方向のやりとりの実現へ**　**・地域資源を活用した域内経済循環の活性化**

美浜町が目指す姿（ビジョン）

『美浜×エネルギー』のショーケースとなる次世代拠点づくり
⇒地域資源の地消による、ヒト・カネ・企業の活性化



ビジョンの全体像

『美浜×エネルギー』のショーケースとなる次世代拠点づくり
⇓地域資源の地消による、ヒト・カネ・企業の活性化

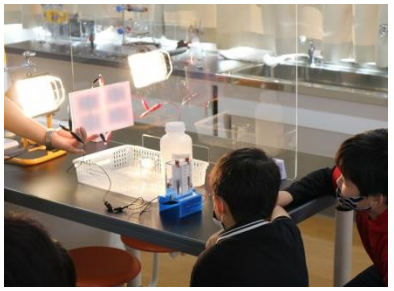
方向性1：ヒトを育て、呼び込む	A：グリーンで強靭なインフラ整備推進 ～再エネ等を効果的に活用しマチ、ヒト、企業の活力創出～
	B：地域のにぎわい創出 ～再エネ等を効果的に活用したヒトを呼び込む仕掛けづくり～
方向性2：地域でお金をまわす	C：地域コミュニティ再興 ～再エネ等を活用した住民主役の地域づくり～
方向性3：企業を元気にする	D：まちづくり推進母体による地域メリット見える化 ～地域の地域による地域のための多彩なサービスの展開～
	E：10年後を見据えたチャレンジ ～先進的エネルギー関連技術の積極的実証、誘致等による長期的地域メリットの創出～
方向性4：グリーンで効率的なインフラを整える	F：30年後を見据えた人材育成 ～エネルギー関連の技術習得等による将来の美浜を支える人材の育成～

① きいぱすにおけるエネルギー環境教育体験事業

（嶺南Eコースト計画：基本戦略Ⅲ、エネルギービジョン：プロジェクト①、⑭）

（本年度実施予定内容）
幅広い年齢層を対象にした、エネルギー構造高度化等について理解を深めるイベントや講座を開催するとともに、教育旅行や校外学習で県内外から集客を図るため、広報活動や貸切バス料金の一部補助を行う。





② 電池推進遊覧船及び美浜町レイクセンターへの再生可能エネルギー設備導入事業　（嶺南Eコースト計画：基本戦略Ⅲ、エネルギービジョン：プロジェクト⑥、⑨）

（整備内容）
1. 太陽光発電設備　52.08kW
2. 蓄電池設備　133.8kWh

（本年度実施予定内容）
〇地域住民への再エネ理解促進のための施設の見学会やセミナー、電池推進遊覧船の試乗体験等の実施
〇再エネ活用による新たな観光スタイルの拡大を図るため、周辺の観光施設や宿泊･交通事業者等と連携したツアー造成及びモニターツアーの実施





③ スマートタウンの整備に向けた調査

（嶺南Eコースト計画：基本戦略III、エネルギービジョン：プロジェクト⑨）

（調査内容）

1. 新たに整備するスマートタウンに関する調査･検討
   （コンセプトや適地、ZEHの有効性等）
2. 新たなスマートタウンで提供し、さらには他地域への水平展開が可能な新しいサービスに関する調査･検討
   （エネルギーレジリエンスの向上、美浜町の特色を活かした暮らしを支えるサービス、VPPへの活用、ゼロカーボン･スマートタウンの取組に関する住民ニーズ調査）



④ その他調査検討事業

（エネルギービジョン：プロジェクト①、⑤、⑦）

1. 美浜町内公共施設におけるPPAモデル導入可能性調査
   ※PPAモデル（第3者所有モデル）による太陽光発電設備等の導入可能性調査

2. 美浜町エネルギーシェアリング利活用可能性調査
   ※太陽光発電設備等により発電した電力の余剰電力を他の公共施設に融通し活用することに関する可能性調査

3. 美浜版エネルギーツーリズム推進プロジェクト加速化に向けた美浜町高島市間道路整備効果調査･検討
   ※美浜町と高島市を連絡する道路整備の効果等を見える化し、その必要性を具体化することを目的とした調査

（PPAイメージ図）

